

中国地方の 選奨土木遺産

改訂版

土木学会 創立百周年記念



土木学会
100th Anniversary
JSCE 1914-2014

たけべいせき 建部井堰

岡山県岡山市

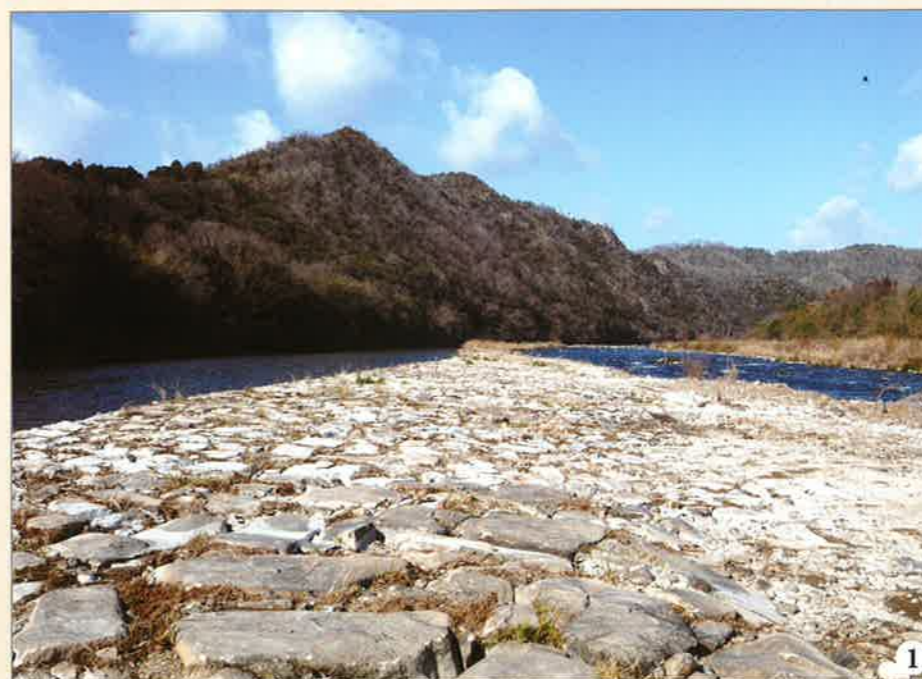
選奨土木遺産 平成24年度認定

現存するわが国最大の 石造取水堰

ここがスゴイ!

江戸時代に築造された石造取水堰が今なお現役

岡山市内より車で約1時間、旭川の中流に建部郷一帯の水田を潤す大井手用水の取水堰・建部井堰がある。現存する石造取水堰の中でも突出して規模が大きく、かつ江戸期の石組みがそのままの状態に残る唯一の堰である。



- 堰上部の石組み
- 巨石の捨石によって構成される先端部
- 右側の弓状の部分が堰

Check Point ★
川の中央で途切れている

一級河川・旭川の中流に位置する建部井堰は、全長約650mで、現存する日本最大の農業用の石造取水堰である。堰本体の約500mは旭川にはほぼ並行し、全面にわたって石組みがなされている。導水路側は整形された巨石が一列に並んでいるが、途中は旭川の本流側に向かってなだらかに傾斜して、端部は断面の丸くなった巻石構造となっている。一方、先端部の約100mは巨石による捨石構造で、川の中央部に向かって大きく湾曲している。また、旭川が備前と美作の国境をなしていたことから、川の中央で途切れた「片持ち式」の斜め堰となっており、極めて珍しい形態も建部井堰の特徴である。

築造年代は明らかになっていないが、岡山藩の藩政資料である池田家文庫の『備陽記』(享保6年)に、「奥津高郡品田村之枝々々ヨリ作州久米南条郡福渡へ築切井堰アリ」と記されていることから、少なくとも享保6(1721)年には存在していたことが確認できる。しかしながら、いつ、誰によって築造されたのか記された史料は、今のところ発見されていない。岡山藩では大規模な干拓事業や用水開発が積極的に行われ、関連する史料も数多く残されている。建部井堰ほどの事業でありながら当時の記録が全く残されていないとすれば、歴代岡山藩主の中でも空白期とされる池田忠雄の時代(1628~32年)に築造された可能性もある。

石造取水堰の多くが安全管理上、コンクリートに改築される中で、建部井堰は地元努力によって良好な状態で維持管理がなされ、町の重要文化財にも指定されていた。しかし、建部町が岡山市に吸収合併された際に文化財指定が解除されてしまった。それに危機感をもった旧町民は、有志による保存会を立ち上げ、以後、積極的な保存活動と啓蒙活動を行ってきた。

遺産概要 所在地:岡山県岡山市北区建部町品田
構造:石造取水堰
規模:長さ約650m,最大幅45m
完成年:享保6(1721)年以前

アクセス

JR津山線「福渡駅」から国道53号線に出て、八幡橋を渡り、右折。国道484号線を800m進み、小玉川を渡ったらすぐに右折し、狭い道を1.3km進む。集落を向けて、さらに進むと右手に井堰に下りる道がある。駐車スペースあり。ただし、湯水期でない、堰の上を越流しているので、接近はできない。要注意。



周辺の見所紹介



津山線の鉄道遺産
中国鉄道本線として明治31年に岡山市駅-津山駅(現・津山口)が開業。煉瓦ポータルの福渡トンネル、煉瓦アーチの第三・第四遊歩橋、木造の建部駅(国登録有形文化財)など開業当初からの貴重な鉄道遺産が多数。



棚田
岡山県の棚田面積は新潟県に続いて第2位。美咲町大井手(おおはがにし)・小山、久米南町北庄・上柳(かみもみ)の4地区が「日本の棚田百選」に認定されており、官民あげて棚田の保全に取り組んでいる。



めだかの学校
「メダカの学校は川の中...」メダカをはじめとする旭川の魚たちを展示した「淡水魚水族館」で、メダカの飼育や自然環境について学習する教室も開催している。自然素材の郷土玩具約5000点を収蔵展示する「おもちゃの館」も併設。



鮎・八工の甘露煮
旭川中流の旧建部町は鮎釣りのメッカ。旭川の清流で捕れた建部自慢の鮎を系統きにして、甘辛く佃煮にした甘露煮は建部の名産品。なつかしい素朴な味わい。八工の甘露煮もある。